

# 公の施設の「適正配置」計画確定前に民間譲渡先行 吉川区の「福寿荘」、市は市社協への譲渡を諮問

吉川区地域協議会が1月21日開催され、同区内の福祉施設、福寿荘の市社会福祉協議会への譲渡に関する諮問について審査されました。諮問は、本年4月、市社会福祉協議会へ無償譲渡するというものです。

審査の前に地域協議会のメンバーが事前に福寿荘の実態調査を行い、炭焼き小屋、陶磁器教室の機器などの状況、生きがい教室の活用状況、市社会福祉協議会が取得した後の建物の活用方針などを確認した結果が報告されました。このなかで、市社会福祉協議会では、就労支援事業の活動の場として活用する計画を持っていることが明らかにされました。

審査のなかでは、「何で来年度に前倒して譲渡するのか」「高齢者の活動はどうか」などの質問が出ました。審査の



## 28日、2000号に到達

おかげ様で、「はしづめ法一の活動レポート」は今月の最後の日曜日、28日の発行で第2000号となります。

第2000号では、長年、お読みいただいた市民の皆さんからのメッセージ、コメントも掲載する予定です。どんなことでもけっこうです。ただ、紙面の都合上、短いものをお寄せいただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。左は第1500号です。



結果、付帯意見として、「新たな高齢者の趣味の教室開催等の要望が出たときは配慮してほしい」というのが出され、答申は、「地域住民の生活に支障なし」という内容になりました。

既報のように、第4次上越市公の施設適正配置計画案が12月4日の市議会総務常任委員会に示され、その資料で福寿荘は「令和4年度に貸付または譲渡」となっていました。それが1か月も経たないうちに「譲渡で合意し、しかも1年前倒しされる」と地元地域協議会に報告され、1月には諮問ですから、計画案策定とのずれなど、ことの経過について市はしっかりと議会に報告する義務があります。3月議会での市の対応を注視していきます。

(写真は1月21日の吉川区地域協議会)



## FM上越、「上越市議に訊く」に出演します



FM上越では毎週火曜日の午後7時18分から「上越市議に訊く」という番組が放送されています。来週の日曜日は私の出演です。先日の収録では、市政の課題や今月末に満算2000号に到達する私の活動レポートなどについていろいろな質問を受けました。市政の課題と活動で語ったのは、頸北斎場を議会の論戦と地域の運動で守ったこと、県立柿崎病院を県立の病院として「存続させる」ことの重要性等です。番組の最後に流れる音楽は柿崎市在住の中村明彦さんが作詞、作曲した「あまただれ」という曲をお聞きしました。この番組はインターネットでも聴くことができます。ぜひお聴きください。

【イヌタデ】再掲。タデ科の一年草。漢字で「犬蓼」と書きます。赤い小さな花や実をつけることから「赤まんま」と呼ぶ人がけっこういます。農道や畑にたくさん生え、群落を作っているところは全体が赤く見えます。花は春から秋遅くまで咲いています。花言葉は「あなたのお役に立ちたい」。写真は昨年12月6日、吉川区小苗代にて撮影しました。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1996 2021.2.7

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第六四四回

### おもてなしの心

なるほど、「もてなす」ってこういうことなんですね。

一月下旬の火曜日のことです。わが家の近くのYさんはこの日、午前からずっとスコップを持って雪どかしをしていました。家の北側の山のようになった雪を掘っていたと思ったら、午後には家の木戸先の道を広げていました。それも雪の芸術作品でもつくるのかと思うほどきれいな四角形の空間にしていたのです。

「がんばっているね」と声をかけたところ、「明後日はおふくろの月命日なんだから。お寺さんが車で来れるようにと思って……」という答えが返ってきました。「それなら、わが家の庭の空いたところ、使って」と誘うと、Yさんは、「まあ、これだけ広げれば、車を置けるだろうし」と言いました。

Yさんにとっては、雪でたいへんな時にお寺さんが家のそばまで車に乗って来ていただくこと自体に意味があったのです。正直言って、お寺さんを迎えるために、ここまで丁寧な対応をする人がいるとは思いませんでした。

Yさんの「お寺さんが……」という言葉聞いて思い出したのは、昨年の秋に聞いた「アイスクリームが好きなお寺さん」のことでした。「じゃ、お寺さんが来る時はアイスクリームを作るの?」「そう、アイス作って、ストーブもつけるるんだわ」

「薪ストーブだよね」「そう、お寺さん、薪ストーブが好きでいらっしゃるから……。暖かければ、窓を開けてでもストーブたくんさね」

ここまで話をしたところで、私とYさんは顔と顔を合わせ、笑ってしまいました。お寺さんのために手づくりのアイスクリームを作るだけでも、現代的で素敵

「おもてなし」だと思えます。それに加えて、薪ストーブならではの本来の火の暖かさを味わってもらおうというのです。それも、仮にストーブがいらぬほどの暖かい部屋であったとしても、「窓を開けてストーブをたく」。ここまで徹底しているとは驚きでした。

私は、Yさんとそのお寺さんの様子が目に浮かびました。真っ赤に燃えるストーブのそばで、アイスクリームを頑丈なスプーンで削って食べている。いっすねえ。

考えてみれば、昔、わが家でも同じようなことをやっていた。私が小さな頃、それも雪のある今時分だったと思います。尾神のあんじょさん(庵主様)がわが家に来られ、お経をあげてくださいました。私はあんじょさんがミカンを持ってきてくださったことが強く記憶に残っているのですが、母があんじょさんを迎えるために前日から煮物づくりなどにはまり込んでいたことも忘れられません。そして、料理のほとんどはワラで作った「つつとこ」に入れて持ち帰っていただきました。当時はそれが当たり前のおもてなしだったのです。

Yさんと話をしているわかったのは、心をこめてお客さんの世話をする「おもてなしの心」の大切さです。お母さんが亡くなった日を大切にし、お寺さんから気持ち良くお経を読んでもらいたい、その第一歩が車でも来てもらえるであろうお寺さんが不自由なく、Yさん宅に来られるようにすることでした。そしてお経が終わったら、昔からの暖かい火のそばでアイスクリームを食べていただく、これこそYさんらしい「おもてなし」だと思いました。

この日は朝焼けがともきれいでした。今冬では最高に冷え込み、凍み渡りもできました。そして日中は、ばかいい天気でした。Yさんの素敵な話を聞いたこともあって、この日は身も心もあたたまりました。

## 自由に、のびのびと描かれた作品いくつも

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

|        | 1月27日(水) | 2月3日(水) |
|--------|----------|---------|
| 上越南消防署 | 0.053    | 0.047   |
| 上越北消防署 | 0.040    | 0.040   |
| 新井消防署  | 0.057    | 0.057   |
| 頸北消防署  | 0.053    | 0.050   |
| 頸南消防署  | 0.067    | 0.073   |
| 東頸消防署  | 0.057    | 0.053   |
| 名立分遣所  | 0.057    | 0.053   |
| 高士分遣所  | 0.063    | 0.060   |

第51回新潟県ジュニア美術展覧会がこのほど市民プラザで開催されました。会場には作品関係者の親子連れなど大勢の人たちが来ておられました。

ジュニア作品は日常生活をみつめ、自分の想いをのせて自由に、のびのびと描いた作品が多く、とても参考になります。

例えば、タイトルが「シャワー」という絵。あっちの太陽が照りつけるなかで、シャワーを頭から浴びるってこんなにも楽しいのかと思いました。手を下げているのではなく、上げているから楽しさが伝わってきます。

柿崎の下黒川小学校の児童が描いた空地蔵とおじいさんの絵も感心しました。吹雪の色って白や灰色だけではダメ、青や黒も使って描くと現実味が増す、そのことを教えてもらいました。

中学生の作品の中で注目したのはタイトルが「幸せな日」という絵です。ビル街の谷間で干してあるカラフルな洗濯物が描かれていますが、こうしたごく普通の暮らしの中に幸せはあるのではないのでしょうか。

紹介したい作品はたくさんありますが、紙面が小さくて申し訳ないです。



# 春よ来い

## 第六四四回

### おもてなしの心

なるほど、「もてなす」ってこういうことなんですね。

一月下旬の火曜日のことです。わが家の近くのYさんはこの日、午前からずっとスコップを持って雪どかしをしていました。家の北側の山のようになった雪を掘っていたと思ったら、午後には家の木戸先の道を広げていました。それも雪の芸術作品でもつくるのかと思うほどきれいな四角形の空間にしていたのです。

「がんばっているね」と声をかけたところ、「明後日はおふくろの月命日なんだから。お寺さんが車で来れるようにと思って……」という答えが返ってきました。「それなら、わが家の庭の空いたところ、使って」と誘うと、Yさんは、「まあ、これだけ広げれば、車を置けるだろうし」と言いました。

Yさんにとっては、雪でたいへんな時にお寺さんが家のそばまで車に乗って来ていただくこと自体に意味があったのです。正直言って、お寺さんを迎えるために、ここまで丁寧な対応をする人がいるとは思いませんでした。

Yさんの「お寺さんが……」という言葉聞いて思い出したのは、昨年の秋に聞いた「アイスクリームが好きなお寺さん」のことでした。「じゃ、お寺さんが来る時はアイスクリームを作るの?」「そう、アイス作って、ストーブもつけるるんだわ」

「薪ストーブだよね」「そう、お寺さん、薪ストーブが好きでいらっしゃるから……。暖かければ、窓を開けてでもストーブたくんさね」

ここまで話をしたところで、私とYさんは顔と顔を合わせ、笑ってしまいました。お寺さんのために手づくりのアイスクリームを作るだけでも、現代的で素敵な

「おもてなし」だと思えます。それに加えて、薪ストーブならではの本来の火の暖かさを味わってもらおうというのです。それも、仮にストーブがいらぬほどの暖かい部屋であったとしても、「窓を開けてストーブをたく」。ここまで徹底しているとは驚きでした。

私は、Yさんとそのお寺さんの様子が目に浮かびました。真っ赤に燃えるストーブのそばで、アイスクリームを頑丈なスプーンで削って食べている。いっすねえ。

考えてみれば、昔、わが家でも同じようなことをやっていた。私が小さな頃、それも雪のある今時分だったと思います。尾神のあんじょさん(庵主様)がわが家に来られ、お経をあげてくださいました。私はあんじょさんがミカンを持ってきてくださったことが強く記憶に残っているのですが、母があんじょさんを迎えるために前日から煮物づくりなどにはまり込んでいたことも忘れられません。そして、料理のほとんどはワラで作った「つつとこ」に入れて持ち帰っていただきました。当時はそれが当たり前のおもてなしだったのです。

Yさんと話をしているわかったのは、心をこめてお客さんの世話をする「おもてなしの心」の大切さです。お母さんが亡くなった日を大切にし、お寺さんから気持ち良くお経を読んでもらいたい、その第一歩が車でも来てもらえるであろうお寺さんが不自由なく、Yさん宅に来られるようにすることでした。そしてお経が終わったら、昔からの暖かい火のそばでアイスクリームを食べていただく、これこそYさんらしい「おもてなし」だと思いました。

この日は朝焼けがともきれいでした。今冬では最高に冷え込み、凍み渡りもできました。そして日中は、ばかいい天気でした。Yさんの素敵な話を聞いたこともあって、この日は身も心もあたたまりました。

## 自由に、のびのびと描かれた作品いくつも

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

|        | 1月27日(水) | 2月3日(水) |
|--------|----------|---------|
| 上越南消防署 | 0.053    | 0.047   |
| 上越北消防署 | 0.040    | 0.040   |
| 新井消防署  | 0.057    | 0.057   |
| 頸北消防署  | 0.053    | 0.050   |
| 頸南消防署  | 0.067    | 0.073   |
| 東頸消防署  | 0.057    | 0.053   |
| 名立分遣所  | 0.057    | 0.053   |
| 高士分遣所  | 0.063    | 0.060   |

第51回新潟県ジュニア美術展覧会がこのほど市民プラザで開催されました。会場には作品関係者の親子連れなど大勢の人たちが来ておられました。

ジュニア作品は日常生活をみつけ、自分の想いをのせて自由に、のびのびと描いた作品が多く、とても参考になります。

例えば、タイトルが「シャワー」という絵。あっちの太陽が照りつけるなかで、シャワーを頭から浴びるってこんなにも楽しいのかと思いました。手を下げているのではなく、上げているから楽しさが伝わってきます。

大島小学校の児童が描いたサンタさんとプレゼント配りの絵も感心しました。外の雪景色がとても暖かい色となっています。

トナカイがひくソリに乗っている人もとても楽しそうで、暖かい空間にいます。描いた人はきっと素敵なプレゼントをもらったのでしょうか。

美術展で展示されていた作品は約500点、どれも紹介したくなる作品ばかりでした。紙面が小さく、いくつも紹介できなく、申し訳ないです。



# 春よ来い

## 第六四四回

### おもてなしの心

なるほど、「もてなす」ってこういうことなんでですね。

一月下旬の火曜日のことです。わが家の近くのYさんはこの日、午前からずっとスコップを持って雪どかしをしていました。家の北側の山のようになった雪を掘っていたと思ったら、午後には家の木戸先の道を広げていました。それも雪の芸術作品でもつくるのかと思うほどきれいな四角形の空間にしていたのです。

「がんばっているね」と声をかけたところ、「明後日はおふくろの月命日なんだから。お寺さんが車で来れるようにと思って……」という答えが返ってきました。「それなら、わが家の庭の空いたところ、使って」と誘うと、Yさんは、「まあ、これだけ広げれば、車を置けるだろうし」と言いました。

Yさんにとっては、雪でたいへんな時にお寺さんが家のそばまで車に乗って来ていただくこと自体に意味があったのです。正直言って、お寺さんを迎えるために、ここまで丁寧な対応をする人がいるとは思いませんでした。

Yさんの「お寺さんが……」という言葉聞いて思い出したのは、昨年の秋に聞いた「アイスクリームが好きなお寺さん」のことでした。「じゃ、お寺さんが来る時はアイスクリームを作るの?」「そう、アイス作って、ストーブもつけるるんだわ」

「薪ストーブだよね」「そう、お寺さん、薪ストーブが好きでいらっしゃるから……。暖かければ、窓を開けてでもストーブたくんさね」

ここまで話をしたところで、私とYさんは顔と顔を合わせ、笑ってしまいました。お寺さんのために手づくりのアイスクリームを作るだけでも、現代的で素敵なら

「おもてなし」だと思えます。それに加えて、薪ストーブならではの本来の火の暖かさを味わってもらおうというのです。それも、仮にストーブがいらぬほどの暖かい部屋であったとしても、「窓を開けてストーブをたく」。ここまで徹底しているとは驚きでした。

私は、Yさんとそのお寺さんの様子が目に浮かびました。真っ赤に燃えるストーブのそばで、アイスクリームを頑丈なスプーンで削って食べている。いっすねえ。

考えてみれば、昔、わが家でも同じようなことをやっています。私が小さな頃、それも雪のある今時分だったと思います。尾神のあんじょさん(庵主様)がわが家に来られ、お経をあげてくださいました。私はあんじょさんがミカンを持ってきてくださったことが強く記憶に残っているのですが、母があんじょさんを迎えるために前日から煮物づくりなどにはまり込んでいたことも忘れられません。そして、料理のほとんどはワラで作った「つつとこ」に入れて持ち帰っていただきました。当時はそれが当たり前のおもてなしだったのです。

Yさんと話をしているうちに、心をこめてお客さんの世話をする「おもてなしの心」の大切さです。お母さんが亡くなった日を大切にし、お寺さんから気持ち良くお経を読んでもらいたい、その第一歩が車でも来てもらえるであろうお寺さんが不自由なく、Yさん宅に来られるようにすることでした。そしてお経が終わったら、昔からの暖かい火のそばでアイスクリームを食べていただく、これこそYさんらしい「おもてなし」だと思えました。

この日は朝焼けがともきれいでした。今冬では最高に冷え込み、凍み渡りもできました。そして日中は、ばかいい天気でした。Yさんの素敵な話を聞いたこともあって、この日は身も心もあたたまりました。

## 自由に、のびのびと描かれた作品いくつも

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

|        | 1月27日(水) | 2月3日(水) |
|--------|----------|---------|
| 上越南消防署 | 0.053    | 0.047   |
| 上越北消防署 | 0.040    | 0.040   |
| 新井消防署  | 0.057    | 0.057   |
| 頸北消防署  | 0.053    | 0.050   |
| 頸南消防署  | 0.067    | 0.073   |
| 東頸消防署  | 0.057    | 0.053   |
| 名立分遣所  | 0.057    | 0.053   |
| 高士分遣所  | 0.063    | 0.060   |

第51回新潟県ジュニア美術展覧会がこのほど市民プラザで開催されました。会場には作品関係者の親子連れなど大勢の人たちが来ておられました。

ジュニア作品は日常生活をみつけ、自分の想いをのせて自由に、のびのびと描いた作品が多く、とても参考になります。

例えば、タイトルが「シャワー」という絵。あっちの太陽が照りつけるなかで、シャワーを頭から浴びるってこんなにも楽しいのかと思いました。手を下げているのではなく、上げているから楽しさが伝わってきます。

大潟町小学校の児童が描いた朝日池総合農場のニワトリ小屋の絵も感心しました。たぶん、初めて見たのでしょうか、ニワトリ

そのものよりも卵や小屋自体に目が向いている。なかなかいいですね。

中学生の作品の中で注目したのはタイトルが「幸せな日」という絵です。ビル街の谷間で干してあるカラフルな洗濯物が描かれていますが、こうしたごく普通の暮らしの中に幸せはあるのではないのでしょうか。

紹介したい作品はたくさんありますが、紙面が小さくて申し訳ないです。

